

第 2 学年 国語科学習シラバス

1 学習目標

- 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。
- 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を生活の役に立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 学習の進め方

- 2年生では、1年生で身につけた国語学習の基礎・基本を確認しながら活用し学習します。
- 知識・技能…・漢字の知識をさらに広げる。・抽象的な概念を表す語句の量を増やす。単語の活用・付属語・意見と根拠、具体と抽象の関係に気づく。・我が国の言語文化に関する知識を広げる。
- 思考・判断・表現…・話すこと・聞くこと、書くこと、読むことに関する事柄について理解する。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。	
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりする。
○評価の方法	○定期テスト、言語事項、作文（感想文、意見文等）、聞き取りテスト、漢字テスト等
思考・判断・表現	論理的に考える力や共感する力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
○評価の方法	○定期テスト、スピーチ、作文（感想文、意見文等）、ワークシート等
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合う。
○評価の方法	○意欲的に授業に取り組む姿勢、ノートの記述、提出物の取り組み

評 定 学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します

4 学習計画

学期	主な学習	学習の内容
1	○広がる学びへ。 ○多様な視点から。 ○情報社会を生きる。 ○言葉と向き合う。 ○読書生活を豊かに。 ○硬筆 ○さまざまな文章に触れ、言葉の豊かさに気づく ○構成を捉え、説明の工夫を考える	・話や文章の中で言葉を扱うことで、語感を磨き語彙を増やす。 ・文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉える。 ・詩歌や小説などを読み、考えたことを伝え合う。 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報の関係を理解する。 ・硬筆ペンを使い、字形や文字のバランス、きれいに書くための方法を理解する。 ・登場人物の言動や心情を表す表現に注意して作品を読む。 ・文章の全体と部分の関係や具体的事例の役割などから筆者の主張を読み取る。 ・聞き手を意識して、必要な情報を整理し、資料や機器を効果的に活用して説明する。 ・短歌について知り、表現の美しさを味わう。

	○プレゼンテーションをする ○表現を味わい、言葉の世界を広げる ○外国文学を味わう ○類義語・対義語・多義語 ○熟語の構成 ○自立語 ○硬筆	・読書を通して時代や国境を越え、たくさん の人物との出会いを楽しむ。 ・類義語と対義語、多義的な意味を表す語句 から、言葉の幅を広げる。・熟語の成り立ちの仕組みを理解する。 ・自立語について理解する。 ・硬筆ペンを使い、字形や文字のバランス、 きれいに書くための方法を理解する。
2	○人間のきずな。 ○論理を捉えて。 ○いにしえの心を訪ねる。 ○価値を語る。 ○読書に親しむ ○書きぞめ ○さまざまな関係を捉え、考えを深める ○昔の人のものの見方や考え方にふれ、古典に親しむ ○筆者の意見をとらえ、説得力のある表現を学ぶ ○気持ちを込めて手紙を書く ○同じ訓・音をもつ漢字○敬語○書初め	・登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈する。 ・それぞれの場面に描かれた登場人物の人柄や心情を捉える。 ・文章の構成や論理の展開について理解する。 ・敬語の働きについて理解する。 ・文語文(古文)の表現や漢詩の表現に慣れ、その特徴をつかんで読み味わう。 ・目的に応じて複数の情報を整理しながら、適切な情報を得て解釈する。 ・毛筆の扱い方、行書について理解する。 ・漢詩にふれ、詩に歌われている情景を想像 し、昔の人の心情を捉える。 ・文章中に述べられている事実や根拠を確かめながら、筆者の意見を読み取る。 ・内容が相手に伝わるような構成を考える。 ・複数の訓や音の読み方をする漢字に注意し、生活に生かす。 ・敬語の使い方を知り、日常生活で使う。 ・毛筆の扱い方、行書について理解する。
3	○表現を見つめる。 ○根拠を明確にした、説得力のある表現を学ぶ ○文章や表現の仕方に着目し、筆者の考えを読み取る ○パネルディスカッションをする ○根拠を明確にして、意見文を書く ○付属語 ○方言と共通語 ○送り仮名	・抽象的な概念を表す語句の量を増やし、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句について理解する。 ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ自分の考えを深める。 ・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり表現の効果を考えたり、自分の考えが伝わる文章になる工夫をして書く。 ・1年時に既習済みの漢字、文法事項を元にして、新たな漢字、文法に関する知識を理解する。 ・語句や表現の工夫に着目して、筆者のものの見方や考え方を読み取る。 ・テーマや相手に応じて適切な取材の計画を立て、準備することができる。 ・相手の立場を尊重しながら必要な情報を聞き取り、自分の考えを広げる。 ・情報を再構成し、文章にまとめることができる。 ・付属語の役割について理解することができる。 ・方言と共通語が果たす役割について理解することができる ・送り仮名の付け方の原則を理解する。

第2学年

数学科学習シラバス

1 学習目標

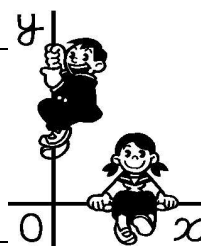
- (1) 事象の中に数量関係を見いだし、それを文字を用いて式に表現し活用する能力を伸ばすとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにします。
- (2) 連立二元一次方程式について理解し、それを用いることができるようにします。
- (3) 観察、操作や実験を通して、基本的な平面図形の性質を見いだし、平行線の性質を基にしてそれらを確認することができるようにします。
- (4) 図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法とを理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養うようにします。
- (5) 具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を養うようにします。
- (6) 具体的な事象についての観察や実験を通して、確率の考え方の基礎を培います。

2 学習の進め方

- 1 計算練習の場を多く設ける。
- 2 友達との意見交換や、後で振り返ったときにわかりやすいように、授業プリントに工夫してまとめさせる。
- 3 問題練習により学習の定着を確認する。
- 4 自分の考え方や、解法を発表する場を設ける。

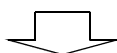
3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。



評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	→	学習への取り組み、定期テスト、授業中の課題など
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。	→	学習への取り組み、定期テスト、授業中の課題
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。	→	学習への取り組み、提出物（ワーク、テスト直しなど）



評 定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	○文字の式 ・簡単な整式の計算 ・文字式の利用 ・目的に応じた式の変形 ○連立二元一次方程式 ・二元一次方程式とその解の意味 ・連立二元一次方程式とその解の意味 ・簡単な連立二元一次方程式を解くこととその活用 ○一次関数 ・事象と一次関数 ・一次関数の特徴 ・二元一次方程式と関数との関係 ・一次関数を用いた具体的な事象の説明 	・簡単な整式の加法，減法及び単項式の乗法，除法の計算ができるようにする。 ・数量及び数量の関係をとらえるために文字式を利用できるようにする。 ・目的に応じて簡単な場合について式を変形できるようにする。 ・二元一次方程式とその解の意味を理解する。 ・連立二元一次方程式とその解の意味を理解する。 ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができるようにする。 ・具体的な問題解決に，連立二元一次方程式を利用できるようにする。 ・事象の中から二つの数量を取り出し，それらの間に一次関数としてとらえられるものがあることを理解する。 ・一次関数は $y = ax + b$ という式で表される関係であることを理解する。 ・一次関数では変化の割合が一定であることを理解する。 ・$y = ax + b$ のグラフは直線であることを理解する。 ・具体的な問題解決に，一次関数を活用できるようにする。
二 学 期	○平面図形の性質 ・平行線や角の性質 ・多角形の角についての性質 ○平面図形の性質の論理的な考察 ・証明の必要性和意味及びその方法 ○三角形の合同条件 ・三角形や平行四辺形の性質の論証	・平行線や角の性質について理解する。 ・平行線や角の性質を基にして，図形の性質を確かめることができるようにする。 ・平行線や三角形の角についての性質を基にして，多角形の角についての性質を知ることができるようにする。 ・数学的な推論の意義と方法について理解します。 ・仮定から出発して，すでに正しいと認められている事柄を根拠にして結論を導くことが証明であることを理解する。 ・三角形の合同条件を理解する。 ・三角形の合同条件などを基にして，三角形や平行四辺形の性質を論理的に確かめることができるようにする。
三 学 期	○確率 ・起こり得る場合の数 ・簡単な場合の確率  ○データの比較 ・四分位範囲と箱ひげ図	・起こり得る場合を，順序よく整理し，正しく数え上げることができるようにする。 ・不確定な事象が起こり得る程度を表す確率の意味を理解する。 ・簡単な場合について，確率を求めることができるようにする。 ・4つのクラスの大縄跳びのデータの四分位数，四分位範囲を求めて，箱ひげ図に表す。

第2学年 社会科学習シラバス

1 学習目標

- 日本や世界の地理的事象に対する関心を高める
- 地理的な見方や考え方の基礎を培う
- 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解する

2 学習の進め方

- 1 1・2年生の授業は、地理的分野と歴史的分野を並行して学習していきます。
- 2 社会科は、社会的な見方・考え方を働かせながら、自ら課題を見いだして自ら解決していくことを学習する教科です。学習する形態は、個人のときもあり、班で活動することもあります。
- 3 授業はプリントを中心に進めます。教科書、地図帳などを活用しながら、自分の考えをまとめます。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係などに関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	→	・ 定期テスト ・ レポート ・ 観察、実験 ・ ワークシート
思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論している。	→	・ 発表の様子や発表内容 ・ ワークシート ・ 課題レポート ・ 定期テスト ・ グループでの活動の様子
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	→	・ 授業中の発言、態度 ・ ノート、レポートへの取組 ・ 自己評価 ・ 相互評価 ・ 定期テスト

評 定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

<地理的分野>

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	日本の様々な地域 ・ 地域調査の手法 ・ 日本の地域的特色と地域区分	・ 観察や野外調査，文献調査を行う際の視点や方法，地理的なまとめ方の基礎を理解する。 ・ 地形図や主題図の読図，目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付ける。 ・ ①自然環境，②人口，③資源・エネルギーと産業，④交通・通信に基づく地域区分を踏まえ，日本の国土の特色を大観させ，理解する。 ・ 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に，地域区分をする技能を身に付ける。
二 学 期	日本の諸地域 ・ 九州地方 ・ 中国・四国地方 ・ 近畿地方 ・ 中部地方 ・ 関東地方 ・ 東北地方 ・ 北海道地方	・ 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について，その地域的特色や地域の課題を理解する。 ・ ①自然環境，②人口や都市・村落，③産業，④交通や通信，⑤その他の事象を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と，それに関連する他の事象や，そこで生ずる課題を理解する。
三学期		

<歴史的分野>

一 学 期	近世の日本 ・ ヨーロッパ人との出会いと全国統一 ・ 江戸幕府の成立と対外政策 ・ 産業の発達と幕府政治の動き	・ ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田、豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，近世社会の基礎が作られたことを理解する。 ・ 江戸幕府の成立と大名統制，身分制と農村の様子，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に，幕府と藩による支配が確立したことを理解する。
三 学 期	開国と近代日本の歩み ・ 欧米における近代化の進展 ・ 欧米の進出と日本の開国 ・ 明治維新 ・ 日清・日露戦争と近代産業	・ 欧米諸国における産業革命や市民革命，アジア諸国の動きなどを基に，欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。 ・ 開国とその影響などを基に，人々の生活が大きく変化したことを理解する。 ・ 明治維新の諸改革の目的，議会政治や外交の展開などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，明治維新と近代国家の形成，議会政治の始まりと国際社会との関わりについて，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現する。 ・ 日清・日露戦争，条約改正などを基に，我が国の国際的な地位が向上したことを理解する。

第2学年

理科学習シラバス

1 学習目標

- 身近な自然の事物や身のまわりの現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- 観察・実験などを行い、科学的に探求する力を養う。
- 自然の事物や現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の進め方

- 1 日常生活とのかかわりを考えながら授業を行います。
- 2 観察・実験を通して規則性を考えていきます。
- 3 観察・実験は少人数（2人～4人程度）で行います。
- 4 観察・実験結果や考察をノートや実験プリントにまとめて提出します。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

①知識・技能	自然事象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察・実験に関するきほんてきな基本操作などの技能を身につけている。	⇒	①観察・実験のようす 実験プリント 基礎操作の実技テスト 定期テスト 単元ごと的小テストなど データ処理など
②思考・判断 表現	自然事象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	⇒	②実験プリントの記述分析など 定期テストなど
③主体的に学 習に取り組む 態度	自然事象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	⇒	③実験プリント 授業での発表内容 レポート 授業の課題に向かう姿勢

評 定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	化学変化と原子・分子 ○物質のなり立ち ・物質はどこまで分解できるか ・物質はなにからできているか ○いろいろな化学変化 ・物質どうしは結びつくか ・化学変化を記号で表そう ・酸化と還元の化学変化 ○化学変化と物質の質量 ・化学変化の前後で物質の質量 ・化合する物質の質量の割合 ○化学変化と熱の出入り ・熱が発生する化学変化 ・熱を吸収する化学変化 動物の生活と生物の進化 ○細胞のつくりとはたらき ・細胞のつくり ・細胞のはたらきと生物の体 ○生命を維持するはたらき ・呼吸のはたらき・血液の循環	○物質が原子からできていることを分解・化合の実験を通して理解する。 ○単体・化合物の違いを原子の種類から説明できる。 ○原子・分子や化学変化のようすを記号で表すことができる。 ○酸化、還元について理解し、説明できる。 ○質量保存の法則を実験から説明できる。 ○化学変化と状態変化の違いを説明できる。 ○実験を通して化学変化に関する物質の質量の割合は一定であることを理解する。 ○化学変化には発熱反応と吸熱反応があり、熱の出入りが伴うことを理解する。 ○生物のからだは細胞からなることを知る。 ○植物と動物の細胞のつくりの違いを理解する。 ○血液のはたらきを理解し、心臓を中心とする循環系について説明できる。 ○肺での外呼吸や細胞での内呼吸について説明できる。
二 学 期	・消化と吸収 ・排出のしくみ ○行動のしくみ ・刺激と反応・からだが動くしくみ ○動物のなかま ・動物の分類・無セキツイ動物 電流とその利用 ○電流と回路 ・電気の利用 ・回路に流れる電流や電圧 ・電圧と電流の関係 ・電気のエネルギー ○電流と磁界 ・電磁石のまわりの磁界 ・磁界の中で電流が受ける力 ・電磁誘導と発電 ・直流と交流	○実験を通して食物を消化するしくみについて理解し、消化のはたらきを説明できる。 ○肝臓や腎臓のはたらきについて説明できる。 ○骨格や筋肉の働きについて理解する。 ○動物の特徴によって脊椎動物を分類することができることを理解する。 ○電気用図記号や回路図を正しく書ける。 ○電流の流れや直列回路・並列回路について説明でき、回路をつなぐことができる。 ○電流計・電圧計が正しく使える。 ○直列回路・並列回路での電流や電圧・抵抗の関係を実験を通して理解できる。 ○オームの法則について正しく説明できる。 ○ワット数と発熱の関係を説明できる。 ○磁力や磁界について理解し、磁界のようすを磁力線で表すことができる。 ○実験を通して電流のまわりの磁界のようすについて説明できる。 ○電磁誘導や誘導電流について説明できる。
三 学 期	○電流の正体 ・身近な静電気による現象 ・真空放電と陰極線 ・電流の正体・放射線の性質と利用 気象のしくみと天気の変化 ○気象観測 ・気象の観測・気圧と風 ○大気中の水蒸気の変化 ○前線の通過と天気の変化 ・気団と前線・前線と天気の変化 ○日本の気象 ・大気の動き・日本の天気・天気予 ・自然の恵みと気象災害	○静電気についての実験を行い、静電気や放電について説明できる。 ○放射線にはどのような性質があり、利用にはどのような問題があるか説明できる。 ○気象観測の方法を知り、気象情報や天気図を読み取ることができる。 ○飽和水蒸気量・湿度・露点について理解し、霧や雲ができる理由を説明することができる。 ○前線や気圧と天気の関係を理解し、天気の変化を予測することができる。 ○日本列島付近の大気の動きや天気図から四季の天気の特徴を関連付けて考えることができる。 ○災害の種類とその対応について説明できる。

第2学年

英語学習シラバス

1 学習目標

- はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を聞き取ることができる。
- 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の概要をとらえることができる。
- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。
- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができる。

2 学習の進め方

読んだことや聞いたことについて自身の感想や意見を述べる力を育てるため、2年生では文章の概要を捉え、生徒が思考力、判断力を働かせながら英語で思いを表現することに注力します。授業で日常的な話題も取り上げながら、自分の言いたい気持ちや意見をもとにどういった語句や文法で表現するのが適切かを考え、教師や友人との振り返りを大切に授業を展開します。それと同時に新出文法だけでなく、1年次の既習事項を定期的に復習し、更なる成長を支援します。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

①知識・技能	正しい語句や文法の特徴やきまりを理解している（知識） 言葉の特徴やきまりを理解して、正確に表すことができる（技能）	⇒	①言語の正確さを図ります。 ・パフォーマンステスト ・ワークシート ・活動観察 ・ペーパーテスト など
②思考・判断 表現	状況、場面に応じて、日常的な話題や社会的な話題について情報を整理したり、伝え合ったりすることができる。	⇒	②内容の適切さを図ります。 ・パフォーマンステスト ・ワークシート ・活動観察 ・ペーパーテスト など
③主体的に学習に取り組む 態度	技能、表現力を身に付けるための粘り強い取り組みや、自らの学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤するなど調整しながら学ぶ態度が備わっている。	⇒	③学習への主体的な姿勢を図ります。 ・パフォーマンステスト ・振り返りカード ・ポートフォリオ ・活動観察 ・ワークシートなど

評 定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	Unit0 My Spring Vacation Unit1 A Trip to Singapore Unit2 Food Travels around the World Unit3 My Future Job Stage Activity 1 A Message to Myself in the Future	1 年生で学習したことの振り返り 休暇や週末の予定について、まとめることができる 好きな食べ物やその理由について、たずねたり伝えたりすることができる 自分が体験したことや学んだことなどについて、たずねたり伝えたりすることができる 好きなことや得意なことについて話し合い、自分に合うと思う仕事について書こう
二 学	Unit4 Homestay in the United States Unit5 Universal Design Unit6 Research Your Topic Stage Activity 2 Research and Presentation	習慣やマナーについて、たずねたり伝えたりすることができる 身近なもの・ことについて、使い方ややり方を説明したり、自分の考えを述べたりすることができる 身近なことについて、特徴を比較しながら説明することができる クラスで人気のあるものを調べて、その結果をその結果を発表しよう
三 学 期	Unit7 World Heritage Sites Stage Activity 3 My Favorite Place in Our Town	各地の世界遺産を紹介することができる 自分の町のおすすめの場所について書き、相手にその場所の特徴やよい点を伝えよう

令和6年度 滑川中学校 音楽科シラバス（第2学年）

1 学習目標

- 曲想と音楽の構造や背景などとの関り及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- 主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

2 学習の進め方

- 1 歌唱では、基礎・基本的な西洋や日本の発声方法を理解し習得すると共に、独唱や斉唱、各パート別の練習を通し、ハーモニー作りを練習します。
- 2 器楽では、ギター・打楽器・箏を中心とした器楽活動をします。
- 3 創作では、歌詞の抑揚に沿った旋律をつくったり、リズムを組み合わせて情景や様子などを表現したりなど、イメージしたことを音で自由に表現する活動を行います。
- 4 鑑賞では、音楽を形づくっている要素や曲の構造と曲想の関わりなどを発見して様々な音楽を聴きます。

3 評価の観点・評価方法

評価の観点はA・B・Cの三段階です

		評価方法
知識・技能	音楽を表現するための基礎的な知識・技能を身に付けている。	・授業中の取り組み ・実技テスト ・定期テスト ・提出物
思考・判断・表現	音や音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫して生かしている。	・授業中の取り組み ・歌唱・器楽・創作・鑑賞 ・実技テスト ・定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽への興味・関心を持って、意欲的に表現しようとする。	・授業中での様子 ・授業道具の忘れ物有無 ・提出物の状況 ・授業中の取り組み ・実技テスト ・定期テスト

評 定	学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。
-----	-------------------------

4 学習計画

学 期	おもな学習内容 ＜学校行事との関わり＞	学 習 の ね ら い
1 学期	○新しい仲間と気持ちを込めて表現しよう。（歌唱） ・合唱曲「夢の世界を」 ・合唱曲「翼をください」 ○オーケストラの豊かな表現を味わおう。（鑑賞） ・交響曲第5番ハ短調 Op.67 ○情景を想像して表現を工夫しよう。（歌唱） ・歌曲「夏の思い出」 ・歌曲「荒城の月」	・新しい仲間と歌う喜びをわち合い曲趣を生かした発声で表情豊かに歌うことができる。 ・二重唱による美しいハーモニーをつくることができる。 ・多声音楽と和声音楽の違いに注目し、楽曲を仕上げるることができる。 ・オーケストラの各楽器の音色や豊かな表現を味わって聴くことができる。 ・モティーフで構成される楽曲の音楽的效果について考えることができる。 ・歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい強弱記号や速度を工夫して歌うことができる。
2 学期	○豊かな合唱表現を追求しよう。 ・学年合唱曲 2年生「あなたへ」 ・各クラスの合唱曲 ○総合芸術の多様な表現を味わおう（鑑賞）。 ・歌舞伎「勧進帳」 ・歌劇「アイダ」 ○言葉の抑揚を生かして旋律をつくろう。（創作）	・各声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱することができる。 ・校内合唱コンクールへの参加を通して、いろいろな合唱曲に取り組み、表現力と合唱する力をいっそう伸ばすことができる。 ・指揮、伴奏と仲間と協力して歌い合わせる喜びを感じ取ることができる。 ・総合芸術としての歌舞伎や歌劇を比較して、表現力の豊かな響きを味わうことができる。 ・歌とオーケストラ、他の芸術分野による音楽的效果を感じ取ることができる。 ・歌舞伎独特の発声法を生かして歌うことができる。
3 学期	○打楽器の音色の組合わせを工夫し、アンサンブルを楽しもう。 ・打楽器のための小品 ・マンボ「テキーラ」 ○パイプオルガンの響きを感じ、主題と応答に注目しながら聴こう。（鑑賞） ・オルガン「フーガ ト短調」 ○豊かな響きの混声合唱にしよう＜卒業式＞ ・国歌・校歌 ・旅立ちの日に	・グループ分けと楽器編成の工夫ができる。 ・楽曲の特長を生かして、表現の工夫ができる。 ・打楽器の音色に着目し、様々な打楽器を使用しながら組み合わせの工夫を行うことができる。 ・パイプオルガンの構造を理解し、音楽の構成を理解することができる。 ・主題と応答により構成されるフーガの形式を聴き取り、音楽的效果を理解することができる。 ・卒業式に向けて心のこもった感性豊かな表現の工夫ができる。 ・一年間のまとめとして、混声合唱の豊かな響きを味わうことができる。

第2学年 美術科 シラバス

1 学習目標

- 美術科では、制作活動、鑑賞を通して美術を愛好する心情を育てること、また生涯学習として役立つ技術を習得することを目指しています。
- 絵画や彫刻、デザインや工芸、鑑賞の各分野について、基礎基本を習得します。
- 美術文化について理解を深め、豊かな情操を養います。

2 授業の基本・学習の進め方

- 1 普段から様々な体験をし、豊かな人生を送ることを心がける。
- 2 決まりや安全を守り、その上で自由に発想する。
- 3 自分の表現を大切にし、他の表現を尊重する。
- 4 真剣に、最後まで突き進む。
- 5 必要のない動きはせず、準備は休み時間中に、片付けは授業中に終わらせる。
- 6 授業はできるだけ休まない。休んだら、先生や友達に授業内容を必ず確認する。
- 7 美術系の連絡を注意して聞く。前日までに必要な道具を準備する。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。		評価方法
① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて表現方法を工夫して表している。	作品の完成度(絵画、デザイン、彫刻、工芸など課題によって求められる技能が変わります)、小テスト、ワークシート、技能テスト等
② 思考・判断・表現	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	作品そのものから読み取れる発想の豊かさや表現の工夫、アイデアスケッチ、ワークシート、鑑賞授業の感想文、自分の作品の説明文、友達の作品へのコメント等
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	制作態度全般(発言、文章の記述量や質、忘れ物、集中して取り組んでいるか、完成させ期限を守ったか等)

評 定	学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。
-----	-------------------------

4 学習計画

学期	おもな学習内容	学習のねらい
1 学期	○マイルームへようこそ！	・一点透視図法を用いた表現方法を学び、配色や陰影のつけ方を意識しながら、技法や道具の特性を生かして表す。 ・表したいものやイメージを基に、濃淡や線などの効果を考え、個性豊かな部屋の構想を練ったり鑑賞したりする。 ・創意工夫しながら、個性豊かな空間を作り出すことに意欲的に取り組む。
2 学期	○ルネサンスが目指したもの ○つくって使って味わう工芸	・ルネサンスの作品を鑑賞し、他の時代の作品と比べるなどして、作品を通して、作者の生きた時代や社会的背景など、幅広い視点から捉えた作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えられる。 ・美に憧れる人間の普遍的な心情など、ルネサンスの美術や文化のよさや美しさなどについて理解できる。 ・材料の特性や質感、加工方法などに着目し、材料の持ち味をとらえ、材料や用具の特性を生かし、見通しをもって表す。 ・材料のよさや美しさ、使う場面や機能などをもとに、材料の特性や効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。 ・材料の特性や機能性などを生かしてつくることに関心を持ち、意欲的に取り組む。
3 学期	○マークのデザイン	・身近な環境の中に見られる造形的な美しさや生活を豊かにする美術やデザインの働きなどを理解できる。 ・構成美の要素を学び取り入れたり、配色など工夫したりして、個性豊かで美しいマークのデザインを発想構想できる。 ・生活環境を豊かにするデザインの効果などについて着目し鑑賞できる。

第2学年 保健体育科学習シラバス

1 学習目標

- 技能： 各運動の特性に触れて運動の楽しさや喜びを味わうとともに、運動を実践することで体力の向上を図り、基礎基本の技能を身につける
- 態度： 公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす等の意欲を育てるとともに、健康・安全に留意しながら運動をする態度を育てる
- 学び方： 各運動の特性と自己の能力に応じて課題解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）を行えるように工夫する。

2 学習の進め方

- 男女共習が基本
- 授業規律（欠席・見学をしない、忘れ物をしない、授業に遅れない、正しい服装、きびきびとした動作、大きな声で挨拶・返事をする）を大切にする
- 学習カードを重要なものと認識し、提出はもちろん内容についても工夫する
- 運動や健康・安全について留意しながら、積極的に取り組む
- 仲間と協力し、励まし合い、教え合い、お互いを高め合う活動にしていく

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

①知識・技能	- 運動や健康・安全についての知識を正しく理解している。 - 各運動の技能を身につけ、実践できる	⇒	- 運動のルールを理解 - 技能の仕組みの理解 - 保健の内容の理解 - 期末テスト - 各運動の技能の習熟度 - 授業中の指示、教わったことを身につけられたか
②思考・判断・表現	運動の仕方を工夫し、技能の向上や健康・安全について正しく判断することができる。	⇒	学習カードや活動時に見える自己の運動技能や取り組みに対しての考え方
③主体的に学習に取り組む態度	意欲的に授業に参加し、運動の特性を積極的に味わおうとしている。		- 運動に対して一生懸命取り組もうとする態度 - 授業に対する意欲的な姿勢

評 定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学 期	お も な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	○体育理論 ○体づくり運動・新体力テスト ○陸上競技Ⅰ（短距離走・リレー） ○陸上競技Ⅱ（走り幅跳び） ○器械運動（跳び箱）：女子 球技Ⅰ（ソフトボール）：男子 ○水泳（クロール・平泳ぎ）	・運動に対する理解を深めることができる ・体づくり運動の必要性を理解し、意欲的に取り組むことができる ・体力テストで自己の体力を知り、課題を知ることができる ・チームでバトンパスの方法などを工夫し、記録の向上を目指すことができる ・自己の能力を知り、記録を伸ばすための工夫をすることができる ・できる技を高め、新しい技に挑戦する意欲を持って取り組むことができる ・基本的な個人技能や集団技能を習得し、チームで協力し合ってゲームができる ・自己の泳力の程度を知り、泳力に応じた課題に意欲的に取り組むことができる
二 学 期	○器械運動（跳び箱）：男子 球技Ⅰ（ソフトボール）：女子 ○体づくり運動 ○柔道 ○ダンス ○保健	・できる技を高め、新しい技に挑戦する意欲を持って取り組むことができる ・基本的な個人技能や集団技能を習得し、チームで協力し合ってゲームができる ・体力の高め方について理解することができる ・自己の体力を高める運動の方法を理解し、工夫をするとともに、積極的に取り組むことができる ・技の仕組みを理解し、「受け・取り」及び「体落とし・大腰」ができる ・リズムダンスを中心に仲間と協力し、意見を交換しながら作品づくりに取り組むことができる ・応急処置の意義・方法について理解できる。 ・心肺蘇生法などの応急処置について理解し、実習を踏まえて技能を身につけることができる
三 学 期	○球技Ⅱ サッカー バスケットボール ○保健 ○体づくり運動	・基本的な個人技能や集団技能を習得し、チームで協力し合ってゲームができる ・ルールを守り、安全に留意して練習やゲームができる ・健康は個人を取り巻く環境から深く影響を受けることを学ぶと共に、環境保全の大切さを知り、行動することができる ・体力の高め方について理解することができる ・自己の体力を高める運動の方法を理解し、工夫をするとともに、積極的に取り組むことができる

第2学年 技術・家庭科学習シラバス

1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○技術分野の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○家庭分野の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 学習の進め方

「技術分野」および「家庭分野」の2分野で構成されています。技術分野の内容は、A「材料と加工に関する技術」 B「生物育成に関する技術」 C「エネルギー変換に関する技術」 D「情報に関する技術」、家庭分野の内容は、A「家族・家庭生活」 B「衣食住の生活」 C「消費生活・環境」で構成されています。

【技術分野】

A「材料と加工に関する技術」の学習では、設計から製作まで自分で考え、いろいろな材料を使って生活に役立つものを完成させます。

B「生物育成に関する技術」の学習では、生物育成の生育条件、技術等を学び、育成生物を計画的に育てることができるような学習をします。

C「エネルギー変換に関する技術」の学習では、エネルギー変換に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得し、生活に役立つ簡単な電気製品の制作を行います。

D「情報に関する技術」の学習では、情報化社会のなかで生活の道具として利用されるコンピューターを使って、情報の収集や発信をし、適切に活用できる能力を育成します。

【家庭分野】

・「衣食住の生活」の学習では、衣服の手入れ、食生活について、補修、室内環境の設備と住まい方について、実践・体験をし、生活に役立つ事を身につけます。

・「家族・家庭生活」の学習では、自らの成長を振り返り、幼児の観察や遊び道具の製作、幼稚園訪問を通して、家族や家庭生活との関わりができる能力の育成をします。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

知識及び技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	→	・定期テスト ・レポート ・製作作品
思考、判断、表現	こらからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	→	・定期テスト ・ワークシート ・製作作品 ・ポートフォリオ
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	→	・授業への取り組み ・ワークシート ・ポートフォリオ

評 定	学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。
-----	-------------------------

4 学習計画

一学期	【家庭分野】 B 衣食住の生活 ●生活を豊かにする物をつくる ／生活に役立つ小物づくり ○ わたしや家族の生活を豊かにする工夫 ○ 布を用いた物の製作 ●自分らしく着る・快適に着る ／自分の衣生活を組み立てよう ○ 日常着の活用 ○ 日常着の手入れ ○ 環境に配慮した衣生活	衣服と社会生活との関わりを考え目的に応じた着用や個性を生かせる事を身につけられるように学習する。 ・自らの衣類のチェックを行い、計画的な活用を考えることができる。 ・日常着のチェックを行い、適切な手入れと補修ができる。 ・運針、玉結び、本返し縫い、玉留め、ボタン付け、ミシン縫いの方法の習得ができる。 家族が住まう空間としての住居の機能を学習する。
二学期	●快適に住まう ／住空間を整えてみよう ○ 住まいのはたらき ○ 安全な住まい ○ 快適な住まい ●調理をしよう ・肉料理 ・魚料理 ・野菜料理 ●地域の食材と食文化	・家族が住まう空間としての機能を知ることができる。 ・安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方の工夫をすることができる。 ・食品の選択と日常食の調理の基礎について知ることができる。 ・食生活の安全と衛生に留意し、食品や調理器具等の適切な管理ができる。 ・日本や地域の食文化について理解し、調理することができる。
二学期	【技術分野】 C 生物育成に関する技術 ●わたしたちの生活と生物育成 ●作物の栽培 ●実習 ●生物育成に関する技術とわたしたち	生物育成と生活や環境の関係について考え、生物育成の生育条件と生物育成技術とのつながりを理解し、生物育成技術を学習する。 ・生物育成の意味と目的、生活における役割を知ることができる。 ・作物の育成に関する時期、条件、規則性、など理解することができる。
三学期	B エネルギー変換に関する技術 ●わたしたちの生活とエネルギー変換 ●エネルギーの変換と利用 ●動力伝達の機構とその利用 ●機器の安全な利用と保守点検 ●実習 ●エネルギー変換に関する技術とわたしたち	・作物の収穫と利用、作物の計画をたてたり、考えたりすることができる。 - 電気と生活のかかわりを理解し、エネルギーや電気器機の安全で効率的な使い方を学習する。 ・電源の種類や特徴を調べ、理解する。 ・電気の安全な使用について理解する。 ・電気回路について理解し、簡単な回路図がかけられる。 ・エネルギー変換を理解し、発電方法を知る。 ・簡単な電気の計測ができる。